

厚沢部町義務教育学校整備検討委員会第1回会議録

日 時：令和7年5月7日（水）18時00分～19時10分

場 所：厚沢部町図書館視聴覚室

出席者：検討委員会委員

近藤良信（社会教育委員長・民生児童委員）
太田滋子（社会教育委員副委員長・人権擁護委員）
尾山浩崇（厚沢部小学校運営協議会会長）
山田克哉（館小学校運営協議会会長）
香川直樹（厚沢部中学校運営協議会会長）
玉置英樹（町校長会長、町教研会長）
大滝英樹（館小学校長）
荒谷真一（厚沢部小学校教頭）
宍戸暢宏（こども園・厚沢部小学校保護者代表）
平本大城（こども園保護者代表）
西山訓央（厚沢部小学校保護者代表）
八重樫明美（厚沢部小学校保護者代表）
西口智章（こども園・館小学校保護者代表）
中川一秀（政策推進課主幹）
橋端純恵（保健福祉課主幹）
宮本修太（保健福祉課こども園児童指導員）
宮脇いずみ（地域魅力化コーディネーター）

オブザーバー

安田 光（総務財政課長）
安達達也（保健福祉課長）

支援業務委託先

平井聡一郎（未来教育デザイン）

事務局職員

高野政人（教育長）
二宮和之（事務局長）
太田聡子（事務局主幹（学校教育））
石井淳平（事務局主幹（社会教育））
加藤一義（指導主事）
山田蒼良（学校教育係）
中野健二（建設水道課建築アドバイザー）

欠席者：高田一弥（厚沢部商工会長）

講 師：平井聡一郎氏（合同会社未来教育デザイン代表社員）

1. 開会・挨拶

定刻となり、厚沢部町義務教育学校整備検討委員会（令和7年度第1回）が開会された。冒頭、教育長より本委員会の趣旨と今年度の検討内容の概要、住民や教職員への研修・広報活動の展望が述べられた。

2. 委員紹介

新任を含む委員全員の紹介が行われた。構成は、学校運営協議会委員、教職員、保護者代表、関係行政機関職員、学識経験者など幅広い層からなり、委員数は18名（うち1名欠席）である。

3. 委員長・副委員長の選出

- ・委員長：香川直樹氏（厚沢部中学校 学校運営協議会会長）
 - ・副委員長：近藤良信氏（社会教育委員長）
- いずれも昨年度に引き続いての選出となった。

4. 議題

(1) 義務教育学校の整備スケジュールについて
事務局より昨年度の経過と基本方針の説明があった。

- ・昨年度6回の委員会開催を経て「基本方針」を策定。
- ・児童生徒数は今後も減少傾向にあり、小中併せて将来的には100名を下回る見込み。
- ・義務教育学校の目指す理念は「学びの連続性」や「地域とともに歩む教育」等5本柱。
- ・校舎は「施設一体型」を目指し、教育と地域の連携を重視。
- ・建設候補地は6か所から3か所に絞られ、引き続き調査・評価を行う。
- ・令和11年または12年の開校を視野に基本設計～建設工事を進めるスケジュール案が提示された。

(2) 先進地視察について

7月中旬に1泊2日で以下2校の視察を予定。

- ・岩見沢市「くりさわ学舎」（令和7年度開校、既存校舎活用、150名規模）
- ・札幌市「定山溪学園」（令和7年度開校、新築平屋建て、40名規模）

※安平町の早来学園も候補にあったが、受け入れ未定のため今年度は見送り予定。

5. 教育動向についての講話（平井聡一郎氏）

- ・学校施設整備と教育内容改革は並行して進めるべき。
- ・少子高齢化・AI・グローバル化等の急激な社会変化に対応できる「意思決定力のある人材」の育成が重要。
- ・特に地方小規模校ならではの教育資源（地域・自然・少人数環境）を活かしたカリキ

ユラムが求められる。

・柔軟な教育課程（文科省通知）を活かした校舎設計と教育内容の再構築が今後の鍵である。

6. 次回日程等

・住民講演会：令和7年6月4日（火）18:30～あゆみ交流ホールにて開催

※検討委員も出席予定

・当日は先進地視察に関する詳細説明も予定

7. 閉会

以上をもって第1回整備検討委員会を終了。